

研究会大会報告

令和7年度研究会大会 開催報告

Report on the CSAJ Study Groups Meeting 2025

令和7年度研究会大会実行委員会

Executive Committee of the CSAJ Study Groups Meeting 2025

2025年11月8日と9日の2日間、令和7年度研究会大会がオンラインで開催された。100名を超える参加者が集い、スポンサー5社にご支援いただき、盛況のうちに終えることができた。オンライン開催の特性を活かし、海外はオーストラリアやシンガポール、国内も様々な地域からの参加があった。講演・発表・聴講いただいた皆様に、心より感謝の意を表したい。詳しい内容については、セッション別に担当委員から報告させていただく。

今回から大会サイトのデザインが一新され、参加登録者がログインして情報入手、Zoom参加する方式に変わった。Googleアナリティクスの解析によると、リニューアルにより大会サイトへのアクセス数が格段に増した。

研究会大会は、日本色彩学会の10の研究会が交替で取りまとめをしている。測色研究会に代わって今年度は美的感性研究会が担当し、次は色彩教材委員会にバトンを渡す。DXを進めつつ、引き続き「研究会による企画」ならではの多彩なアイデアを持ち寄り、多様な参加者を集客する魅力的な大会として続いていくことを願う。

(川澄未来子・大会実行委員長)

合同研究発表会

研究会大会では、会員の研究発表の場として、研究会合同の発表会を毎年実施している。今年度は、画像色彩研究会、視覚情報基礎研究会、色覚研究会、色彩教材研究会、測色研究会、美的感性研究会の6研究会での合同研究発表会となった。

発表会は、11月8日午後に1セッション(3件の発表)、11月9日午前1セッション(4件の発表)、午後2セッション(各4件、3件の発表)の4セッション14件の発表がZoomミーティングを用いたオンライン形式で、各セッション50~60名ほどの参加のもと行われた。

各発表は、発表15分、質疑応答4分と設定され、活発な質疑応答が行われた。質疑応答の時間が十分ではなく、議論を尽くすには時間不足ではあったが、発表後にZoomのチャットを使って引き続き議論が行わ

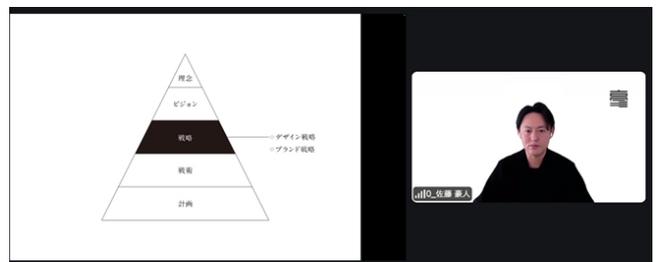
れるなど、オンラインでの利点を活かした研究発表会になったものと考えられる。いずれの発表も大変興味深く、今後の研究の展開が期待されるものであった。

(眞鍋佳嗣・視覚情報基礎研究会)

特別企画「地域のデザイン、いろいろお話しします」

本講演会は、11月8日の14時から1時間半、クリエイティブディレクター/アートディレクターの佐藤豪人氏をお招きし、岡山を中心実践されてきたブランディングとデザインの取り組みについて、具体的な事例を交えながら分かりやすく紹介いただいた。佐藤氏は地域の課題や背景の読み取り方、クライアントの価値をどのように可視化してきたか、さらに仕事の流儀や実務の工夫、普段は聞けない裏話まで丁寧に語られた。また、HIDETO SATO DESIGNが掲げてきた「Design & Branding」の理念を示し、デザインは視覚言語として組織や地域がもつ価値や文化を整理し、社会へ共有していく力を持つと説明された。丁寧なヒアリングを通じてプロジェクトの本質を見極め、言語化や体験設計へ展開することで、背景や特性を踏まえたブランドを構築してきた点や中長期の伴走によって信頼性を育んできた点も示された。

講演後には、高橋俊臣氏(岡山県立大学)との対談が行われ、質疑応答にも丁寧に対応くださった。「佐



佐藤豪人氏のプレゼン



佐藤豪人氏と高橋俊臣氏の対談

藤氏のデザインは洗練と温かさを併せもち、言語化の力に深く感動しました。心の音を捉え形にする意匠の奥深さを実感し、まるで哲学講義のように学びの多い時間でした」といったアンケートなどが寄せられ会場にとって学びの多い内容であった。

(松田博子・カラーデザイン研究会)

研究会紹介と交流会

研究会紹介には今大会で発表がなかった研究会を含め、10研究会すべてが参加し、各研究会の主査または幹事から、最近の活動内容を中心に説明していただいた。メールニュースやホームページだけでなく、直接各研究会関係者のお話を伺うと、あらためて各研究会が魅力的な活動や企画を行ってきたことを実感した。現在は対面だけでなく、オンラインでの企画も多いので、以前より研究会の企画に参加しやすくなっているため、自身が所属していない研究会への参加が益々進むことが期待される。

研究会紹介の後に行われた交流会では、複数のブレイクアウトルームに分かれ、自由に意見交換を行った。今回の発表内容についてのディスカッションの続きをしていたルーム、研究会大会の今後のあり方についてディスカッションしていたルームなどがあったようである。(中には終了予定の時間を過ぎても続いていたルームもあった。)とくに事前の仕掛けなどはしていない企画であったが、それぞれ「勝手に盛り上がり」いただけたようで、短い時間ながら楽しいひとときとなった。

(羽成隆司・美的感性研究会)



出合いや再会を楽しむオンライン交流会

優秀発表奨励賞

研究会合同研究発表会では、研究会大会発足時より、若手研究者の活発な研究を奨励するための優秀発表奨励賞(以下、本賞)を設けている。本賞は研究発表会の登壇者(発表者)に送られるもので、研究内容とプレゼンテーションの両方を審査することに特色がある。受賞資格は以下の通りである。

- ・2025年(令和7年)4月1日における年齢が満40

歳以下であること。

- ・これまでに全国大会発表奨励賞及び本賞を受賞したことがないこと。
- ・「予稿ありのスライド発表」で申し込むこと。

今年度の審査対象者は7名であった。研究会大会実行委員会は審査委員会を組織し、委員長を含む5名の審査委員により審査を行った。審査は例年に倣い採点方式とし、あらかじめ審査委員会で定めた手続きにより実施した。

発表それぞれに、発表者それぞれの個性がよく発揮されていた。また、受賞には至らなかったが、研究の方向性や将来性を高く評価された発表が多かった。今後の研究の発展に期待したい

プレゼンテーションは、声の質や話すスピード、活舌などにより、Zoomではよく聞き取りにくいものがあった。発表スキル改善の参考とされたい。

審査の結果、下記の2名を受賞者とし、閉会式において発表した。受賞者には表彰状が送付された。

- ・田内優思朗さん(千葉大学)(画像カテゴリが彩度順応効果に与える影響)
- ・安喰英幸さん(千葉大学)(光沢感の画像再現に影響を与える物理特徴と画像特徴の実験的解析)

受賞者のみなさん、おめでとうございます。審査に当たられた審査委員各位に、記して謝意を表します。

(鈴木卓治・優秀発表奨励賞審査委員長)

令和7年度研究会大会実行委員会

- 川澄未来子(実行委員長/美的感性研究会)
- 昆野照美(色彩教材研究会)
- 鈴木卓治(画像色彩研究会)
- 田中緑(測色研究会)
- 羽成隆司(理事会リエゾン)
- 深井英和(美的感性研究会)
- 松田博子(カラーデザイン研究会)
- 眞鍋佳嗣(視覚情報基礎研究会)
- 溝上陽子(色覚研究会)
- 吉澤陽介(色彩教材研究会)
- 八木橋生輔(学会事務局)